

事務事業名	歴史的公文書収集整理事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	市史・文化財担当	樋田久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	社会の健康・豊かな心を育むまち		
	個別目標	大和の文化を守り育てる		
	めざす成果	郷土の文化がしっかりと引き継がれている		
根拠法令	名 称	公文書館法(昭和63年6月1日施行)		
		公文書等の適切な管理、保存及び利用に関する懇談会報告書（平成16年）		
		公文書等の管理に関する法律(平成21年7月1日法律66号)		
当該事業の法令等による義務付けの有無		有		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
	昭和56年度			設定無し

2. 事務事業の概要

対 象		総事業費 (単位：千円)				
大和市の行政機関、行政委員会などの保存年限満了公文書（歴史的公文書）			28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）	
		事業費	4,292	2,542	2,541	
		人件費	4,560	4,520	4,520	
目 的		総事業費	8,852	7,062	7,061	
歴史的公文書を収集・保管し、市民へ情報提供可能な状態とします。		30年度事業費（予算額）財源内訳				
		国支出金		0		
		県支出金		0		
		市債		0		
		その他		0		
		一般財源		2,541		
		合 計		2,541		
3. 活動内容						
活動指標 1	名称	歴史的公文書の選別実施量			単位	箱数
	内容説明	選別作業の対象とした廃棄公文書の量（文書保存箱数）				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	100	100	130	
活動指標 2	指標値	実 績	106	101	－ － －	
	名称	マイクロフィルム化処理のコマ数			単位	コマ数
	内容説明	資料をマイクロフィルム撮影したコマ数				
活動指標 3	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	2,000	2,000	2,000	
	指標値	実 績	2,082	1,762	－ － －	
活動指標 4	名称	整理済みの資料数（累計）			単位	箱
	内容説明	整理済みの資料を収納した保存箱数の累計数				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	790	1,100	1,180	
活動指標 5	指標値	実 績	915	1,045	－ － －	
	名称				単位	
	内容説明					
活動指標 6	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定				
	指標値	実 績			－ － －	
課 題						
歴史的公文書の効率的な整理手法を検討するとともに、これらを保管する書庫や閲覧スペースの確保について検討を継続する必要があります。						

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	I：現状のまま継続	28年度	I：現状のまま継続	29年度	I：現状のまま継続
	収集した資料の整理作業を進めていきます。					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	27年度	28年度	29年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	歴史的公文書の保存及び活用は市の責務であり、市の関与が必要です。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	27年度	28年度	29年度	A：十分に成果を上げている。
	A	A	A	劣化が進行している公文書の画像化など、優先度の高いものから整理を行っています。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	27年度	28年度	29年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	歴史的公文書の保存及び活用のために必要な最低限の経費で事業を実施しています。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	A：受益・負担は適正である。
	A	A	A	市民共有の知的資源である歴史的公文書を収集整理する事業であり、受益・負担については適正です。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減に向けた取り組み4点について十分に行ったか。
	27年度	28年度	29年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	利用希望の多い写真資料、地図資料等について閲覧等の利用に供しています。

事務事業名	地域歴史資料整理・保存事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	市史・文化財担当	樋田久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	社会の健康・豊かな心を育むまち		
	個別目標	大和の文化を守り育てる		
	めざす成果	郷土の文化がしっかりと引き継がれている		
根拠法令	名 称	公文書館法(昭和63年6月1日施行)		
		公文書等の適切な管理、保存及び利用に関する懇談会報告書(平成16年6月)		
当該事業の法令等による義務付けの有無		有		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
	昭和46年度			設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
個人などが所蔵する地域の歴史的資料		28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）
	事業費	1,827	2,002	2,041
	人件費	2,940	2,913	2,913
目 的	総事業費	4,767	4,915	4,954
地域の歴史的資料を市民共通の財産として将来にわたり引き継ぐとともに、活用可能な状態とします。	30年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
手段、手法【実施手法：直営】		県支出金		0
		市債		0
		その他		0
		一般財源		2,041
		合 計		2,041
・中性紙の封筒・箱に収納するとともに、目録を整備します。				
・保存と活用のためマイクロフィルムなどへ媒体変換				

3. 活動内容							
活動指標 1	名称	マイクロフィルム撮影コマ数				単位	コマ
	内容説明	資料をマイクロフィルム撮影したコマ数					
	指標値	28年度		29年度（当該年度）		30年度	
		予 定	4,000	4,000	4,000		
実 績	3,700	4,208	— — —				
成 果（効果・予測）							
・地域の歴史資料を未来へ継承することができます。 ・市域の歴史資産の概要が把握され、活用可能となります。 ・地域の歴史を調べようとする者にとって、資料活用が可能となります。							
活動指標 2	名称	製本数				単位	冊数
	内容説明	各資料を保存のため製本した冊数					
	指標値	28年度		29年度（当該年度）		30年度	
		予 定	30	30	30		
実 績	31	65	— — —				
活動指標 3	名称					単位	
	内容説明						
	指標値	28年度		29年度（当該年度）		30年度	
		予 定					
実 績			— — —				
活動指標 4	名称					単位	
	内容説明						
	指標値	28年度		29年度（当該年度）		30年度	
		予 定					
実 績			— — —				
課 題							
・個人が所蔵する資料（昭和48年頃に近世文書を主な対象として実施した悉皆調査時に簡単な資料整理をおこなったもの）について、今後の長期保存を目的とした再整理作業を実施する必要があります。 ・個人が所蔵する近・現代資料についても、資料保存や活用についての相談や依頼があり、それらについても調査・保存・整理作業を実施する必要があります。							

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	I：現状のまま継続	28年度	I：現状のまま継続	29年度	I：現状のまま継続
	各家が所蔵している資料の整理・目録化を計画的に進めます。また、資料の解読作業を行い、資料利用の道を開きます。毎年一定の予算により一定量の整理を継続的に進めるとともに、資料の媒体変換も予算に応じ、着実に進めていきます。					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	27年度	28年度	29年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	地域歴史資料は、市民共有の歴史資産であり、その保存活用については市の関与が必要です。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	27年度	28年度	29年度	A：十分に成果を上げている。
	A	A	A	資料を後世に伝えるため必要な整理作業を確実に実施していきます。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	27年度	28年度	29年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	保存と活用のため最低限必要とされる整理作業を行っており、適正な経費です。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	A：受益・負担は適正である。
	A	A	A	地域資料を将来にわたって市民共有の歴史資産として保存する事業であり、受益・負担は適正です。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減に向けた取り組み4点について十分に行ったか。
	27年度	28年度	29年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	市史関連刊行物の発行、歴史資料提供、相談事業を通して市民への情報提供を行っています。

事務事業名	文化芸術振興事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	文化振興担当	樋田 久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	社会の健康・豊かな心を育むまち		
	個別目標	大和の文化を守り育てる		
	めざす成果	多様な文化や芸術を楽しむ人が増えている		
根拠法令	名 称	文化芸術基本法		
当該事業の法令等による義務付けの有無		一部有		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
	昭和28年度			設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費				(単位：千円)		
市民		28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）			
	事業費	14,498	14,678	14,831			
	人件費	9,672	11,790	11,790			
目 的	総事業費	24,170	26,468	26,621			
市民の文化芸術活動の発表の場及び芸術鑑賞の機会を提供します。	30年度事業費（予算額）財源内訳						
		国支出金	0				
		県支出金	0				
		市債	0				
		その他	110				
		一般財源	14,721				
手段、手法【実施手法：直営・委託】	合 計		14,831				
	3. 活動内容						
	活動指標1	名称	文化芸術作品の展示日数		単位	日	
		内容説明	文化祭・文芸祭で一般公募展を開催した日数				
		指標値	28年度	29年度（当該年度）	30年度		
予 定			19	30	27		
成 果（効果・予測）	活動指標1	実 績	18	30	――		
		・市民の文化芸術活動の裾野を広げることができます。					
課 題	活動指標2	名称	コミュニティ音楽館の開催日数		単位	日	
		内容説明	コミュニティセンターで音楽会を開催した日数				
		指標値	28年度	29年度（当該年度）	30年度		
			予 定	15	15	16	
	より多くの市民に開かれた事業を実施するための方策について、常に検討する必要があります。	活動指標2	実 績	15	15	――	
活動指標3			名称	文化芸術事業委託件数		単位	件
			内容説明	（公財）大和市スポーツ・よか・みどり財団に委託した件数			
			指標値	28年度	29年度（当該年度）	30年度	
	予 定	3		3	2		
	活動指標3	実 績	3	3	――		
		活動指標4	名称	YAMATO ART100の開催日数		単位	日
			内容説明	YAMATO ART100として開催した日数			
			指標値	28年度	29年度（当該年度）	30年度	
予 定	100			100	100		
	活動指標4	実 績	100	100	――		

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	28年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	29年度	Ⅱ：見直しのうえで継続
	すべての市民が、文化芸術を日常の一部として親しむことのできる機会を提供できるよう、福祉や産業、まちづくりなどの他の生活分野との連携を図るための仕組みを検討していきます。					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	27年度	28年度	29年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	本事業は、文化芸術を創造し、享受する権利を保障するため、すべての市民が文化芸術に触れ、親しむことのできる機会を提供するものであり、今後も継続的に市が関与していく必要があります。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	27年度	28年度	29年度	A：十分に成果を上げている。
	B	A	A	文化祭及びさくら文芸祭一般公募展の出品数は、過去6年間で最多を記録するなど、本事業で実施している文化芸術イベントには多くの市民が参加しており、現在の実施手法で事業効果は十分に得られていると考えています。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	27年度	28年度	29年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	本事業では、民間が効果的、効率的なサービスを提供することができるものについては、積極的に委託を推進しており、事業費、人件費ともに適正な水準であると考えています。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	A：受益・負担は適正である。
	A	A	A	本事業では、すべての市民を対象とした文化芸術イベントを実施しており、受益の公平性等は確保されていると考えています。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減に向けた取り組み4点について十分に行ったか。
	27年度	28年度	29年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	B	B	A	やまと芸術文化ホールはすべての市民にとって利用しやすくなるようユニバーサルデザインの視点を取り入れた施設であり、文化芸術事業には子どもや高齢の方、障がいを持つ方などあらゆる市民が参加することができます。

事務事業名	生涯学習振興基金活用支援事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	文化振興担当	樋田 久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	社会の健康・豊かな心を育むまち		
	個別目標	大和の文化を守り育てる		
	めざす成果	多様な文化や芸術を楽しむ人が増えている		
根拠法令	名 称	文化芸術基本法		
当該事業の法令等による義務付けの有無		一部有		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
	平成15年度			設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
市内を中心に活動する市民及び団体		28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）
	事業費	1,000	1,000	391
	人件費	1,116	1,105	1,105
目 的	総事業費	2,116	2,105	1,496
文化芸術及び生涯学習の振興、普及を図る活動を促進します。	30年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
手段、手法【実施手法：直営】 ・市民及び団体から提案された事業について、選考会議で審査、選定を行い、生涯学習振興基金を活用して補助金を交付します。		県支出金		0
		市債		0
		その他		195
		一般財源		196
		合 計		391
3. 活動内容				
活動指標1	名称	補助金交付件数		単位 件
	内容説明	生涯学習振興補助金の交付件数		
	指標値		28年度	29年度（当該年度）
		予 定	3	4
		実 績	3	4
活動指標2	名称	選考会議開催回数		単位 回
	内容説明	生涯学習振興補助金選考会議の開催日数		
	指標値		28年度	29年度（当該年度）
		予 定	1	1
		実 績	1	1
活動指標3	名称			単位
	内容説明			
	指標値		28年度	29年度（当該年度）
		予 定		
		実 績		
活動指標4	名称			単位
	内容説明			
	指標値		28年度	29年度（当該年度）
		予 定		
		実 績		

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	28年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	29年度	Ⅰ：現状のまま継続
	引き続き、市民から提案のあった文化芸術や生涯学習事業に対して財政的な支援を行い、団体の経済的な負担の軽減を図っていきます。					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	27年度	28年度	29年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	大和市文化芸術振興条例では、市民が文化芸術に親しむことができるよう環境の整備を図ることを市の役割として定めています。本事業は、この役割を果たすための方策の一つであり、今後も継続的に市が関与していく必要があります。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	27年度	28年度	29年度	A：十分に成果を上げている。
	B	B	A	地道なPR活動により、近年ではさまざまな分野の団体から、補助事業に関する問い合わせ、申請をいただくようになりました。事務手続きの根拠となる生涯学習振興補助金交付要綱は定期的に見直しを行っており、現在行っている手法が、事業効果を継続的に確保していくうえで最も効果的なものとなっていると考えています。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	27年度	28年度	29年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	事業費は、市民、団体から提案のあった事業の実施に対する補助金であり、その額については、選考会議の審議結果を踏まえ決定しています。人件費は、主に選考会議の開催に係る経費であり、適正な水準であると考えています。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	A：受益・負担は適正である。
	A	A	A	補助金の交付を受けた団体は、交付を受けた年度の翌年度から3年間は補助対象外としています。また、補助事業については、選考会議において公平・公正な審査を経て決定していることから、受益の偏りはないと考えています。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減に向けた取り組み4点について十分に行ったか。
	27年度	28年度	29年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	市の広報はもちろんのこと、大和市文化芸術連合会登録団体に対して募集チラシを送付するなど、より多くの団体に本事業の存在を知ってもらえるよう、制度のPRを行いました。また、ホームページに過去の対象事業情報を公開しているほか、電話や窓口での相談を受け付けるなど、市民が応募しやすい環境を整えています。

事務事業名	郷土民家園管理運営事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	市史・文化財担当	樋田久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	社会の健康・豊かな心を育むまち			
	個別目標	大和の文化を守り育てる			
	めざす成果	郷土の文化がしっかりと引き継がれている			
根拠法令	名 称	文化財保護法			
当該事業の法令等による義務付けの有無		有			
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間
	平成6年度				設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
郷土民家園		28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）
	事業費	9,963	9,177	8,951
	人件費	670	663	663
目 的	総事業費	10,633	9,840	9,614
市指定文化財である郷土民家園施設を適切に維持管理します。	30年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
手段、手法【実施手法：指定管理】 ・郷土民家園管理運営事業を指定管理者に委ねて実施します。		県支出金		0
		市債		0
		その他		0
		一般財源		8,951
		合 計		8,951

3. 活動内容

活動指標1	名称	事業実施件数			単位	件
	内容説明	園内で、文化財の普及啓発に関する事業を行っています。				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	30	30	30	
		実 績	36	40	――	
活動指標2	名称	行事参加者数			単位	人
	内容説明	園内で行った事業への参加者数				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	11,800	13,000	13,000	
		実 績	13,844	12,124	――	
活動指標3	名称	郷土民家園の入館者数			単位	
	内容説明	園内の見学者数(自動カウンター)				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	55,000	55,000	55,000	
		実 績	49,566	44,111	――	
活動指標4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定				
		実 績			――	

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	I：現状のまま継続	28年度	I：現状のまま継続	29年度	I：現状のまま継続
	入園者数は平成28年度よりも減少傾向にあるが、事業数は増加しており、民家園の管理運営は順調に進んでいます。引き続き郷土民家園の管理・運営を指定管理者に委ね、業務の検証を行います。					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	27年度	28年度	29年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	郷土民家園に移築復元されている古民家は、市民共有の歴史遺産であり、保存、管理および運営には市の関与が必要です。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	27年度	28年度	29年度	A：十分に成果を上げている。
	A	A	A	来館者数は若干減少していますが、市内外から様々な団体等が来館しています。市民に親しまれる事業の実施等により施設の魅力を向上させるよう進めます。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	27年度	28年度	29年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	指定管理者によって施設の管理および事業の実施等が適正に行われてます。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	A：受益・負担は適正である。
	A	A	A	市民共有の歴史遺産を将来に向けて保存管理・公開活用するとともに、生涯学習の一環として事業を行っています。指定管理者は事業参加者に対し教材費実費等の負担を求めています。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減に向けた取り組み4点について十分に行ったか。
	27年度	28年度	29年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	指定管理者により、市民ボランティアの参加、事業広報活動などが行われています。子ども、外国人向けのワークシートの配布等、誰もが利用できるよう配慮されています。また、古民家が自然と共生していた環境を復元しているため、社会的配慮は十分に行われています。

事務事業名	つる舞の里歴史資料館運営事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	市史・文化財担当	樋田久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	社会の健康・豊かな心を育むまち		
	個別目標	大和の文化を守り育てる		
	めざす成果	郷土の文化がしっかりと引き継がれている		
根拠法令	名 称	文化財保護法		
当該事業の法令等による義務付けの有無		有		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
	平成10年度			設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
市民		28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）
	事業費	3,725	2,807	4,705
	人件費	8,907	9,027	9,027
目 的	総事業費	12,632	11,834	13,732
市民が気軽に郷土の身近な文化財に触れることができ、歴史的な探究心に応えられる機会を提供します。	30年度事業費（予算額）財源内訳			
	国支出金		0	
手段、手法【実施手法：直営】 ・市北部の歴史資料を中心に調査・収集・展示公開するとともに、多様な文化財や歴史を紹介する企画展示、つるまい土曜講座を実施します。	県支出金		0	
	市債		0	
	その他		0	
	一般財源		4,705	
	合 計		4,705	

3. 活動内容

活動指標1	名称	企画展示回数			単位	回
	内容説明	年間実施の企画展示回数				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	1	1	1	
		実 績	1	1	――	
活動指標2	名称	利用者数			単位	人
	内容説明	当年度利用者数				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	5,000	5,000	5,000	
		実 績	5,661	4,390	――	
活動指標3	名称	つるまい土曜講座の参加者数			単位	人
	内容説明	土曜日に開催する講座の出席者数				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	100	100	100	
		実 績	84	153	――	
活動指標4	名称	企画展入場者数			単位	人
	内容説明	企画展期間中の入場者人数				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	1,100	1,100	1,100	
		実 績	1,771	788	――	

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	I：現状のまま継続	28年度	I：現状のまま継続	29年度	II：見直しのうえで継続
	地域の歴史資料保存という役目を果たしながら、常設展を継続し、企画展や土曜講座、コーナー展示などを行い郷土愛を醸成するための場となるような事業を行っていきます。企画展や土曜講座の実施内容や事前の宣伝等に関してさらに工夫する必要があります。					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	27年度	28年度	29年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	市内の歴史資料を後世へ確実に継承する目的で市が土地の寄付を受けています。特に、市域の歴史資料の収集・整理保存・調査研究を進めるためには、所蔵者との信頼関係を構築していく必要があり、長期にわたり安定した運営をしていくには市が主導する必要があります。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	27年度	28年度	29年度	B：成果を上げる余地が一部ある。
	A	A	B	収蔵資料は細心の注意を払い保管しています。今後は、来館を促すため来館者のニーズを把握するとともに、企画展や土曜講座の実施内容や事前の宣伝等に関してさらに工夫する必要があります。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	27年度	28年度	29年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	収蔵資料の整理を行う学芸事務補助員の賃金と、企画展や講座実施に必要な経費が主な事業費となっており、経費は適正な水準です。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	A：受益・負担は適正である。
	A	A	A	多くの市民の方々に利用してもらいたいという観点から、来館者に負担を求めず事業を実施しています。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減に向けた取り組み4点について十分に行ったか。
	27年度	28年度	29年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	資料館の紹介や事業案内等は、広報のほかウェブ上で公開し、情報提供しています。

事務事業名	スポーツ・よか・みどり財団支援事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	政策調整担当	樋田 久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	社会の健康・豊かな心を育むまち		
	個別目標	大和の文化を守り育てる		
	めざす成果	多様な文化や芸術を楽しむ人が増えている		
根拠法令	名 称			
当該事業の法令等による義務付けの有無		無		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
				設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費					(単位：千円)		
交付先：（公財）大和市スポーツ・よか・みどり財団		28年度（決算額）		29年度（決算額）		30年度（予算額）		
	事業費	139,888		139,276		143,346		
	人件費	2,232		2,211		2,211		
目 的	総事業費	142,120		141,487		145,557		
(公財) 大和市スポーツ・よか・みどり財団の運営を支援します。	30年度事業費（予算額）財源内訳							
		国支出金		0				
		県支出金		0				
		市債		0				
		その他		0				
		一般財源		143,346				
		合 計		143,346				
手段、手法【実施手法：直営】								
	(公財) 大和市スポーツ・よか・みどり財団の運営費に対して、補助金を交付します。							
成 果（効果・予測）	3. 活動内容							
	活動指標 1	名称	補助金交付回数				単位	回
		内容説明	一年間に補助金を交付した回数					
		指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度		
			予 定	1	1	1		
実 績	1	1	――					
安定した財団運営が持続的に行われ、多くの市民に文化芸術等に親しむ機会を提供することができます。	活動指標 2	名称					単位	
		内容説明						
		指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度		
			予 定					
	実 績			――				
課 題	活動指標 3	名称					単位	
		内容説明						
		指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度		
			予 定					
	実 績			――				
財団の安定かつ持続的な経営基盤の確保に向け、財団の役割や事業内容等の精査を行っていく必要があります。	活動指標 4	名称					単位	
		内容説明						
		指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度		
			予 定					
	実 績			――				

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	I：現状のまま継続	28年度	I：現状のまま継続	29年度	I：現状のまま継続
	公益財団法人として、社会貢献を主たる目的として公益事業を行っていくことについて、引き続き、事業内容等の助言を行っていきます。					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	27年度	28年度	29年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	文化芸術やスポーツ振興、及び緑化の推進を図るため、市が出資し、設立に関与してきたため、市が関与する必要があります。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	27年度	28年度	29年度	B：成果を上げる余地が一部ある。
	B	B	B	これまでも地域密着型事業を実施し、実績を積み上げておりますが、事業内容等を見直すことでより成果を上げることができると思います。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	27年度	28年度	29年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	財団の運営に必要な最小限の人件費で、効率的な執行に努めており、適正な水準です。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	A：受益・負担は適正である。
	A	A	A	文化芸術、スポーツ、環境分野に関して、市域全体を対象とした公益事業を展開しており、受益者の公平性は図られています。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減に向けた取り組み4点について十分に行ったか。
	27年度	28年度	29年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	ホームページ等を活用し、財団の組織体制や経営状況など、運営に係るさまざまな情報を発信しています。

事務事業名	下鶴間ふるさと館維持管理運営事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	市史・文化財担当	樋田久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	社会の健康・豊かな心を育むまち		
	個別目標	大和の文化を守り育てる		
	めざす成果	郷土の文化がしっかりと引き継がれている		
根拠法令	名 称	文化財保護法		
当該事業の法令等による義務付けの有無		有		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
	平成17年度			設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
市民		28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）
	事業費	3,866	4,072	4,306
	人件費	2,275	2,381	2,381
目 的	総事業費	6,141	6,453	6,687
市民が地域史を学べたり、昔の暮らしに親しめるようにします。	30年度事業費（予算額）財源内訳			
	国支出金		0	
手段、手法【実施手法：直営】 現地に復元された指定重要文化財の旧小倉家住宅母屋と土蔵を適切に管理するとともに、市民に一般公開します。	県支出金		0	
	市債		0	
	その他		68	
	一般財源		4,238	
	合 計		4,306	

3. 活動内容

活動指標1	名称	施設建物数			単位	棟
	内容説明	維持管理を行った建物				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	3	3	3	
		実 績	3	3	――	
活動指標2	名称	一般公開日数			単位	日
	内容説明	市民に一般公開した日数				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	260	260	260	
		実 績	258	260	――	
活動指標3	名称	入館者数			単位	人
	内容説明	入館した人数				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	5,800	5,800	5,800	
		実 績	5,989	5,942	――	
活動指標4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定				
		実 績			――	

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	I：現状のまま継続	28年度	I：現状のまま継続	29年度	I：現状のまま継続
	今後も年中行事等の展示を行いながら、各種展示において地域と連携して活用の幅を広げていきます。					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	27年度	28年度	29年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	敷地及び復元建物は市の重要文化財にしています。後世に確実に継承していくための保存活用は市の主導で進めていく必要があります。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	27年度	28年度	29年度	B：成果を上げる余地が一部ある。
	B	B	B	市民の郷土学習の拠点となるよう適正な管理運営をしています。施設の活用については、市内在住者の作品展示などにより一定の効果をあげることができました。展示・イベントの内容、事前の宣伝等を工夫し、来館者数の増加につなげる工夫の余地があります。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	27年度	28年度	29年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	必要最小限の経費で維持管理を行っています。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	A：受益・負担は適正である。
	A	A	A	母屋の専用利用時には使用料を徴収し、受益者負担を求めています。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減に向けた取り組み4点について十分に行ったか。
	27年度	28年度	29年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	建物構造上、段差のある母屋入り口にはスロープを設置しています。また、施設情報はウェブ上で公開し、年中行事等についてもウェブ上や広報誌により広く情報提供しています。

事務事業名	文化創造担い手育成事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	文化振興担当	樋田 久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	社会の健康・豊かな心を育むまち		
	個別目標	大和の文化を守り育てる		
	めざす成果	多様な文化や芸術を楽しむ人が増えている		
根拠法令	名 称	文化芸術基本法		
当該事業の法令等による義務付けの有無		一部有		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
	平成23年度			設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
芸術活動を行う若手アーティスト		28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）
	事業費	1,554	1,754	2,110
	人件費	4,836	4,421	4,421
目 的	総事業費	6,390	6,175	6,531
これからの文化創造を牽引する若い世代の発表活動の支援を行うとともに、市民が日常生活の中で文化芸術を感じ、楽しめる機会を提供します。 手段、手法【実施手法：直営】 ・公募型の「YAMATOイラストレーションデザインコンペ」を開催します。 ・コンペ入賞者等を活用して、イラストレーションを日常の生活空間の中に取り入れる取り組みを行います。	30年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
		県支出金		0
		市債		0
		その他		0
		一般財源		2,110
		合 計		2,110

3. 活動内容

活動指標1	名称	YAMATOイラストデザインコンペ作品数			単位	点
	内容説明	YAMATOイラストデザインコンペに応募のあった作品数				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	500	530	500	
		実 績	508	422	――	
活動指標2	名称	作品展等の開催回数			単位	回
	内容説明	イラストレーションに関するイベント・展覧会の開催回数				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	1	1	1	
		実 績	1	1	――	
活動指標3	名称	コンペ入賞者等の制作依頼件数			単位	件
	内容説明	コンペ入賞者にイラスト制作を依頼した年間件数				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	25	20	20	
		実 績	15	19	――	
活動指標4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定				
		実 績			――	

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	28年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	29年度	Ⅱ：見直しのうえで継続
	イラストあふれる魅力的なまちづくりを推進するため、今後はイラスト活用に関する専門家等に意見を聞きながら、入賞者の活用の幅を広げるための取り組みを進めていきます。					

5. 評価結果

市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	27年度	28年度	29年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	大和市文化芸術振興条例では、文化芸術の振興にあたっての基本理念の一つとして、「未来に向け新たな文化芸術を創造する」ことを掲げています。その実現のためには、次代の文化芸術を牽引する担い手を市内に増やしていくことが重要であり、本事業に市が関与していく必要があります。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	27年度	28年度	29年度	A：十分に成果を上げている。
	A	A	A	平成29年度は、イラスト展示に協力していただく民間事業者を増加させ、より多くの市民がイラストアートを身近に楽しめる環境を整備し、魅力的なまちづくりを推進することができました。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	27年度	28年度	29年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	事業費は、全体の必要経費を精査したうえで、可能な限り一般財源の支出の抑制に努めました。人件費は、コンペの運営に係る経費と、入賞者及び制作依頼者との調整に要した経費であり、業務量に見合った適正な水準であると考えます。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	A：受益・負担は適正である。
	A	A	A	若者の発表活動の支援という事業目的を踏まえ、コンペの応募対象を全国の若者、応募料を無料としていることから、受益・負担ともに偏りはなく、公平性は保たれています。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減に向けた取り組み4点について十分に行ったか。
	27年度	28年度	29年度	B：社会的配慮は行っているが、まだ不十分である。
	B	B	B	平成29年度は、大和市商工会議所にイラスト制作の提案を行うなど、入賞者の活用について周知を行いました。今後も、コンペ応募数の増加と認知度向上を図るため、入賞者の活用状況を広く発信していく必要があると考えています。

事務事業名	美術鑑賞推進事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	文化振興担当	樋田 久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	社会の健康・豊かな心を育むまち		
	個別目標	大和の文化を守り育てる		
	めざす成果	多様な文化や芸術を楽しむ人が増えている		
根拠法令	名 称	文化芸術基本法		
当該事業の法令等による義務付けの有無		一部有		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
	平成23年度			設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
市立小学校		28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）
	事業費	6,478	6,626	6,628
	人件費	4,092	4,053	2,579
目 的	総事業費	10,570	10,679	9,207
美術鑑賞教育の推進を図ります。	30年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
手段、手法【実施手法：委託】 ・美術鑑賞教育をサポートするガイドスタッフを育成します。 ・小学校における対話による美術鑑賞授業にガイドスタッフを派遣します。 ・ボランティア発掘につなげるための取り組みを進めます。		県支出金		0
		市債		0
		その他		0
		一般財源		6,628
		合 計		6,628
	3. 活動内容			
活動指標1	名称	ガイドスタッフ育成研修の開催回数		単位 回
	内容説明	ガイドスタッフ育成のための研修の開催回数		
	指標値		28年度	29年度（当該年度）
		予 定	22	23
		実 績	23	21
活動指標2	名称	ガイドスタッフを派遣した学校数		単位 校
	内容説明	ガイドスタッフを派遣した学校数		
	指標値		28年度	29年度（当該年度）
		予 定	19	19
		実 績	19	19
活動指標3	名称			単位
	内容説明			
	指標値		28年度	29年度（当該年度）
		予 定		
		実 績		
活動指標4	名称			単位
	内容説明			
	指標値		28年度	29年度（当該年度）
		予 定		
		実 績		
課 題	本事業の目的を達成するためには、優秀なガイドスタッフが不可欠であり、こうした人材を継続的、計画的に発掘、育成していく必要があります。			

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	I：現状のまま継続	28年度	I：現状のまま継続	29年度	I：現状のまま継続
	市立小学校全校で対話による美術鑑賞授業が円滑に実施できるよう、引き続き、ガイドスタッフの育成、支援を行っていきます。					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	27年度	28年度	29年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	文化芸術振興条例では、次代を担う子どものための施策に注力することを掲げており、本事業はその施策を具現化するため、市、教育委員会、市民ボランティア、認定NPO法人が連携して実施しています。事業を円滑に進めるためには、市が継続的に関与していく必要があります。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	27年度	28年度	29年度	A：十分に成果を上げている。
	A	A	A	優秀なガイドスタッフの育成並びに各学校のニーズに合わせた適切な鑑賞プログラムを提供するためには、美術鑑賞教育の豊富な知識とノウハウを持つ専門家が不可欠であり、こうした人材を持つ認定NPO法人の協力により事業を実施していく現在の手法が最も効果的であると考えています。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	27年度	28年度	29年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	事業費は、主にガイドスタッフを募集、育成するための費用です。事業を実施するためには、高度な専門性を持った人材の育成が不可欠であり、技術の習得にあたっては、継続的な研修が必要になることから、それに見合った経費になっていると考えています。人件費は関係機関等との調整を行うための必要最低限の経費となっています。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	A：受益・負担は適正である。
	A	A	A	ガイドスタッフは、年齢制限があるものの、美術の知識の有無にかかわらず、誰もが応募できるものであることから、受益の偏りはなく、公平性は保たれています。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減に向けた取り組み4点について十分に行ったか。
	27年度	28年度	29年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	ボランティア募集の際は、市の広報やホームページのほか、近隣の美術館や美術大学などにも広く情報発信を行いました。また、募集期間中には、活動に対する理解を深めてもらうために、ガイドスタッフが中心となって「対話による美術鑑賞体験会」を開催しました。

事務事業名	大和州市史編集発刊事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	市史・文化財担当	樋田久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	社会の健康・豊かな心を育むまち		
	個別目標	大和の文化を守り育てる		
	めざす成果	郷土の文化がしっかりと引き継がれている		
根拠法令	名 称	公文書館法(昭和63年6月1日施行)		
		公文書等の適切な管理、保存及び利用に関する懇談会報告書(平成16年6月)		
当該事業の法令等による義務付けの有無		有		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
	昭和46年度			設定無し

2. 事務事業の概要

対 象		総事業費				(単位：千円)			
市民			28年度（決算額）		29年度（決算額）		30年度（予算額）		
		事業費	1,001		1,281		1,341		
		人件費	2,707		2,840		2,840		
目 的		総事業費	3,708		4,121		4,181		
市域の歴史についての基礎的な資料・記録・資料評価に関する歴史情報を提供し、市民が地域の歴史探求を行う際の情報提供を行います。		30年度事業費（予算額）財源内訳							
		国支出金		0					
		県支出金		0					
		市債		0					
		その他		0					
		一般財源		1,341					
		合 計		1,341					
		3. 活動内容							
		活動指標 1	名称	『大和市史研究』発行回数				単位	回数
			内容説明	『大和市史研究』は隔年で発行しています。					
指標値			28年度	29年度（当該年度）	30年度				
	予 定		1	0	1				
実 績	1	0	――						
成 果（効果・予測）	・『大和市史研究』発行により、市域の歴史テーマについての専門家の新しい知見に接することができ、知識の習得・更新ができます。 ・『大和市史資料叢書』発行により、市域の良質な資料に手軽に接することができ、探求・研究に資することができます。	名称	『大和市史資料叢書』発行回数				単位	回数	
		内容説明	『大和市史資料叢書』は隔年で発行しています。						
		指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度			
			予 定	0	1	0			
		実 績	0	1	――				
		活動指標 2	名称					単位	
			内容説明						
			指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度		
				予 定					
実 績									
活動指標 3	名称					単位			
	内容説明								
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度				
		予 定							
実 績									
活動指標 4	名称					単位			
	内容説明								
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度				
		予 定							
実 績									
課 題									
・在庫切れの図書については、デジタルデータによる情報提供方法について検討する必要があります。提供にあたっては著作権の取扱いについて検討する必要があります。 ・図書に掲載した資料については、利用希望に対応できるように、資料の特性を考慮した収納・保存・活用の方法を検討する必要があります。									

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	I：現状のまま継続	28年度	I：現状のまま継続	29年度	I：現状のまま継続
	歴史情報の提供について、図書等の紙媒体、ウェブ等のデジタル媒体の双方を活用し、若年層から高齢者までの幅広い年代の歴史探求の需要を満たせるよう、引き続き継続していきます。					

事務事業名	文化会館建設基金管理事務			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	文化振興担当	樋田 久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	社会の健康・豊かな心を育むまち		
	個別目標	大和の文化を守り育てる		
	めざす成果	多様な文化や芸術を楽しむ人が増えている		
根拠法令	名 称	文化芸術基本法		
当該事業の法令等による義務付けの有無		一部有		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
	昭和47年度			設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
大和市の文化施設		28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）
	事業費	706	1	108
	人件費	744	737	737
目 的	総事業費	1,450	738	845
文化施設建設等の財源を確保するための基金を適正に管理します。	30年度事業費（予算額）財源内訳			
	国支出金			0
	県支出金			0
	市債			0
	その他			108
	一般財源			0
	合 計			108
	3. 活動内容			
	活動指標1	名称	寄附金受入れ件数	単位 件
		内容説明	1年間に寄附金を受け入れた件数	
		指標値	28年度	29年度（当該年度）
			予 定	30年度
			実 績	
成果（効果・予測） ・文化施設の建設等に寄与します。 ・寄附していただいた市民等の篤志に応えることができます。	活動指標2	名称		単位
		内容説明		
		指標値	28年度	29年度（当該年度）
			予 定	30年度
			実 績	
	活動指標3	名称		単位
		内容説明		
		指標値	28年度	29年度（当該年度）
			予 定	30年度
			実 績	
課 題 原資の大幅な増額は望めないことから、基金を活用する場合は、その施設の建設等の必要性、重要性を十分に検討する必要があります。	活動指標4	名称		単位
		内容説明		
		指標値	28年度	29年度（当該年度）
			予 定	30年度
			実 績	

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	I：現状のまま継続	28年度	II：見直しのうえで継続	29年度	II：見直しのうえで継続
	文化施設建設等の貴重な財源として、引き続き適正な管理を行います。また、基金の存在について、広報・PRを充実させ、市民へのさらなる周知を図っていきます。					

事務事業名	生涯学習振興基金管理事務			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	文化振興担当	樋田 久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	社会の健康・豊かな心を育むまち		
	個別目標	大和の文化を守り育てる		
	めざす成果	多様な文化や芸術を楽しむ人が増えている		
根拠法令	名 称	文化芸術基本法		
当該事業の法令等による義務付けの有無		一部有		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
	平成14年度			設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
市民の文化芸術及び生涯学習の振興、普及活動		28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）
	事業費	73	83	110
	人件費	744	737	737
目 的	総事業費	817	820	847
市民の文化芸術及び生涯学習の振興、普及を図るための基金を適正に管理します。	30年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
手段、手法【実施手法：直営】 ・市民等からの寄附金を基金として積み立て、その利子及び原資を適正に管理します。		県支出金		0
		市債		0
		その他		110
		一般財源		0
		合 計		110

3. 活動内容

活動指標1	名称	寄附金受入れ件数		単位	件
	内容説明	1年間に寄附金を受け入れた件数			
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度
		予 定	1	1	1
		実 績	1	2	――
活動指標2	名称			単位	
	内容説明				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度
		予 定			
		実 績			――
活動指標3	名称			単位	
	内容説明				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度
		予 定			
		実 績			――
活動指標4	名称			単位	
	内容説明				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度
		予 定			
		実 績			――

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	I：現状のまま継続	28年度	II：見直しのうえで継続	29年度	II：見直しのうえで継続
	市民の文化芸術、生涯学習事業を支援するための貴重な財源として、引き続き適正な管理を行います。また、基金の存在について、広報・PRを充実させ、市民へのさらなる周知を図っていきます。					

事務事業名	文化団体支援事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	文化振興担当	樋田 久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	社会の健康・豊かな心を育むまち		
	個別目標	大和の文化を守り育てる		
	めざす成果	多様な文化や芸術を楽しむ人が増えている		
根拠法令	名 称	文化芸術基本法		
当該事業の法令等による義務付けの有無		一部有		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
				設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
文化芸術分野の団体		28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）
	事業費	0	0	0
	人件費	3,720	4,421	3,685
目 的	総事業費	3,720	4,421	3,685
文化芸術分野の団体の活動を促進します。	30年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
手段、手法【実施手法：直営】 ・文化芸術分野の団体に対して、運営等に関する指導や助言を行います。 ・大和市文化芸術連合会の運営を行います。 ・市民が主体的に実施する事業に対して、後援及び会場使用等の支援を行います。 ・大和市伝統文化伝承事業実行委員会に対し、文化庁の補助金活用について指導や助言などの支援を行います。		県支出金		0
		市債		0
		その他		0
		一般財源		0
		合 計		0

3. 活動内容

活動指標1	名称	大和市伝統文化伝承事業実行委員会会議出席回数			単位	回
	内容説明	大和市伝統文化伝承事業実行委員会の会議の出席回数				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	4	4	5	
		実 績	4	5	――	
活動指標2	名称	団体等の後援名義使用申請件数			単位	件
	内容説明	市の後援名義使用申請件数				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	20	30	30	
		実 績	38	32	――	
活動指標3	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定				
		実 績			――	
活動指標4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定				
		実 績			――	

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	28年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	29年度	Ⅱ：見直しのうえで継続
	大和市伝統文化伝承事業実行委員会の運営について、より良い活動を促進するための方策を検討します。大和市文化芸術連合会については、加盟団体の活動を促進する支援策を検討・実施していきます。					

事務事業名	文化振興基金管理事務			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	文化振興担当	樋田 久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	社会の健康・豊かな心を育むまち		
	個別目標	大和の文化を守り育てる		
	めざす成果	多様な文化や芸術を楽しむ人が増えている		
根拠法令	名 称	文化芸術基本法		
当該事業の法令等による義務付けの有無		一部有		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
	平成3年度			設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
文化芸術の振興に資する事業		28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）
	事業費	0	0	101
	人件費	744	737	737
目 的	総事業費	744	737	838
文化芸術の振興を図るための基金を適正に管理します。	30年度事業費（予算額）財源内訳			
手段、手法【実施手法：直営】 ・市民等からの寄附金を基金として積み立て、その利子及び原資を適正に管理します。 ・運用益を文化芸術事業の資金として役立てるために、	国支出金		0	
	県支出金		0	
	市債		0	
	その他		101	
	一般財源		0	
	合 計		101	

繰り出しを行います。

3. 活動内容							
活動指標1	名称	寄附金受入れ件数				単位	件
	内容説明		1年間に寄附金を受け入れた件数				
	指標値			28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定		2	2	1	
		実 績		0	0	— — —	
活動指標2	名称					単位	
	内容説明						
	指標値			28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定					
		実 績				— — —	
活動指標3	名称					単位	
	内容説明						
	指標値			28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定					
		実 績				— — —	
活動指標4	名称					単位	
	内容説明						
	指標値			28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定					
		実 績				— — —	
課 題							
原資の大幅な増額は望めないことから、基金を活用する場合は、その事業がもたらす効果を十分に検討する必要があります。							

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	I：現状のまま継続	28年度	II：見直しのうえで継続	29年度	II：見直しのうえで継続
	文化芸術の振興を図る事業を安定的に実施するための貴重な財源として、引き続き適正な管理を行います。 また、基金の存在について、広報・PRを充実させ、市民へのさらなる周知を図っていきます。					

事務事業名	文化財保護管理事務			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	市史・文化財担当	樋田久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標		社会の健康・豊かな心を育むまち			
	個別目標		大和の文化を守り育てる			
	めざす成果		郷土の文化がしっかりと引き継がれている			
根拠法令	名 称	文化財保護法				
		神奈川県文化財保護条例				
		神奈川県文化財保護条例の施行等に関する規則				
当該事業の法令等による義務付けの有無		有				
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間	
					設定無し	

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
大和市内の文化財		28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）
	事業費	277	341	358
	人件費	1,116	1,105	1,105
目 的	総事業費	1,393	1,446	1,463
文化財保護に関する事業を円滑に行います。	30年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
手段、手法【実施手法：直営】 ・神奈川県教育委員会との連絡調整を行います。 ・文化財調査報告書の販売を管理します。		県支出金		0
		市債		0
		その他		0
		一般財源		358
		合 計		358

3. 活動内容

活動指標1	名称	報告書販売数		単位	冊
	内容説明	年間の販売冊数			
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度
		予 定	200	200	200
		実 績	85	107	――
活動指標2	名称			単位	
	内容説明				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度
		予 定			
		実 績			――
活動指標3	名称			単位	
	内容説明				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度
		予 定			
		実 績			――
活動指標4	名称			単位	
	内容説明				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度
		予 定			
		実 績			――

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	I：現状のまま継続	28年度	I：現状のまま継続	29年度	I：現状のまま継続
	文化財保護に関わる事務全体を円滑に進めるための基礎となっており、今後も継続していきます。					

事務事業名	文化財保護審議会等運営事務			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	市史・文化財担当	樋田久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	社会の健康・豊かな心を育むまち		
	個別目標	大和の文化を守り育てる		
	めざす成果	郷土の文化がしっかりと引き継がれている		
根拠法令	名 称	文化財保護法		
当該事業の法令等による義務付けの有無		有		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
	昭和41年度			設定無し

2. 事務事業の概要

対 象		総事業費 (単位：千円)					
市内の文化財、指定重要文化財			28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）		
		事業費	403	401	441		
		人件費	1,116	1,105	1,105		
目 的		総事業費	1,519	1,506	1,546		
市内の文化財、指定重要文化財の管理を適切に行います。 。		30年度事業費（予算額）財源内訳					
		国支出金		0			
		県支出金		0			
		市債		0			
		その他		0			
		一般財源		441			
		合 計		441			
手段、手法【実施手法：直営】							
教育委員会が文化財保護審議会の答申を受け重要文化財を指定し（文化財保護審議会は年間2回開催）、指定重要文化財の保存状況を文化財保護指導委員が巡視します。 。							
成 果（効果・予測）							
重要文化財に指定することで、文化財保護についての意識が高まり、市民共有の財産として歴史的・文化的環境を享受できる機会を提供できるようになります。また、定期的に巡視することにより、指定文化財の適正な維持管理のための情報を得ることができます。		活動指標 1	名称	市指定重要文化財指定件数		単位	件
			内容説明	所有者等の申請後、現地等での調査を経て、必要の都度指定			
		指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
			予 定	31	31	32	
			実 績	31	32	――	
活動指標 2	名称	審議会開催数		単位	回		
		内容説明	調査状況の報告、協議及び指定候補物件の適否等を審議				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度		
		予 定	2	2	2		
		実 績	2	2	――		
活動指標 3	名称	巡回調査件数		単位	件		
		内容説明	文化財保護指導委員による巡回件数				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度		
		予 定	52	52	53		
		実 績	52	52	――		
課 題	地域の伝統・文化・文化財に精通した文化財保護指導委員を10地域から選任するのは難しく、今後検討が必要です。	活動指標 4	名称			単位	
			内容説明				
		指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
			予 定				
			実 績			――	

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	I：現状のまま継続	28年度	I：現状のまま継続	29年度	I：現状のまま継続
	大和市に欠くことのできない文化財への指定、指定文化財と文化財案内板の巡回調査は、文化財保護に必要な基礎的業務であり、今後も現状のまま進めていきます。					

事務事業名	埋蔵文化財保護事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	市史・文化財担当	樋田久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標		社会の健康・豊かな心を育むまち			
	個別目標		大和の文化を守り育てる			
	めざす成果		郷土の文化がしっかりと引き継がれている			
根拠法令	名 称	文化財保護法				
		神奈川県文化財保護条例				
		神奈川県文化財保護条例の施行等に関する規則				
当該事業の法令等による義務付けの有無			有			
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間	
	昭和35年度				設定無し	

2. 事務事業の概要

対 象		総事業費 (単位：千円)				
市内の周知の埋蔵文化財包蔵地で開発行為等の事業を行う個人・事業者等			28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）	
		事業費	5,808	5,972	8,376	
		人件費	11,011	10,906	10,906	
目 的		総事業費	16,819	16,878	19,282	
市内に存在する埋蔵文化財保護のため、開発行為等で発掘される埋蔵文化財を記録・保存します。		30年度事業費（予算額）財源内訳				
		国支出金		1,500		
		県支出金		500		
		市債		0		
		その他		60		
		一般財源		6,316		
		合 計		8,376		
3. 活動内容						
活動指標 1	名称	法第92条、第93条、第94条関係事務件数			単位	件
	内容説明	民間事業者・国・地方公共団体が行う開発行為に伴う手続き				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	111	111	100	
	実 績	95	173	――		
活動指標 2	名称	発掘調査件数			単位	件
	内容説明	市直営調査の件数				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	14	14	14	
	実 績	17	17	――		
活動指標 3	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定				
	実 績			――		
活動指標 4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定				
	実 績			――		
課 題						
埋蔵文化財包蔵地に関する問い合わせが多くあることから、効果的な情報提供について検討が必要です。						

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	I：現状のまま継続	28年度	I：現状のまま継続	29年度	I：現状のまま継続
	市地図情報サービス等で埋蔵文化財包蔵地を周知し、埋蔵文化財の各種届出に必要な情報提供、指定文化財の情報を提供します。また、開発に関する照会・協議に対応し、発掘調査についても理解をいただきながら業務を進めていきます。					

事務事業名	民俗文化財保護事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	市史・文化財担当	樋田久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標		社会の健康・豊かな心を育むまち			
	個別目標		大和の文化を守り育てる			
	めざす成果		郷土の文化がしっかりと引き継がれている			
根拠法令	名 称	文化財保護法				
当該事業の法令等による義務付けの有無		有				
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間	
					設定無し	

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
民俗文化財		28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）
	事業費	1,105	1,391	1,810
	人件費	4,166	4,127	4,127
目 的	総事業費	5,271	5,518	5,937
手段、手法【実施手法：直営】	30年度事業費（予算額）財源内訳			
	国支出金		0	
収集民具を調査・実測し、記録を作成し、整理終了後に文化財調査報告書を刊行し、閲覧利用できるようにします。市域の古老から聞き取り調査を行い、伝承されている民俗について調査報告書として刊行します。	県支出金		0	
	市債		0	
	その他		0	
	一般財源		1,810	
	合 計		1,810	

3. 活動内容

活動指標1	名称	調査報告書刊行数			単位	巻
	内容説明	調査結果を市民に公開するために刊行された調査報告書の巻数				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	0	1	1	
		実 績	0	1	――	
活動指標2	名称	民具資料収集点数			単位	点
	内容説明	収集した民具資料数				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	50	50	50	
		実 績	140	553	――	
活動指標3	名称	民具資料整理点数			単位	点
	内容説明	実測・トレースを実施した件数				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	30	20	10	
		実 績	1	3	――	
活動指標4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定				
		実 績			――	

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	I：現状のまま継続	28年度	I：現状のまま継続	29年度	I：現状のまま継続
	収集している民具資料の記録および民俗芸能・行事等の伝承者からの聞き取り調査を実施しています。計画的に毎年少しずつ調査を行うことが大切で、集積したデータなどを記録保存し、調査成果を市民に提供していきます。					

事務事業名	史跡・天然記念物保護事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	市史・文化財	樋田久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標		社会の健康・豊かな心を育むまち			
	個別目標		大和の文化を守り育てる			
	めざす成果		郷土の文化がしっかりと引き継がれている			
根拠法令	名 称	文化財保護法				
当該事業の法令等による義務付けの有無		有				
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間	
	昭和38年度				設定無し	

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
史跡・天然記念物		28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）
	事業費	658	395	714
	人件費	744	737	737
目 的	総事業費	1,402	1,132	1,451
市内に生息していた動物、植物、昆虫類の実物標本の適正な保存管理を行います。また、県・市指定天然記念物の樹木を管理します。	30年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
手段、手法【実施手法：直営】 実物標本は、つる舞の里歴史資料館で保管しています。市指定天然記念物は損害賠償責任保険に加入し、風水害等の自然災害時に巡視を行います。県指定天然記念物については、土地所有者と賃貸借契約を締結し、日常の維持管理等の事業を市が実施します。		県支出金		0
		市債		0
		その他		0
		一般財源		714
		合 計		714

3. 活動内容

活動指標1	名称	天然記念物管理件数			単位	件
	内容説明	ケヤキ2本、タブノキ、ハルニレ、シラカシ林				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	5	5	5	
		実 績	5	5	――	
活動指標2	名称	標本管理件数			単位	件
	内容説明	昆虫標本、植物標本				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	2	2	2	
		実 績	2	2	――	
活動指標3	名称	樹木診断			単位	件
	内容説明	樹木医による天然記念物（樹木）の樹木診断（年1本）				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	1	1	1	
		実 績	1	1	――	
活動指標4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定				
		実 績			――	

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	I：現状のまま継続	28年度	I：現状のまま継続	29年度	I：現状のまま継続
	市指定天然記念物については、所有者と連絡を取り合い専門家のアドバイスを得て、良好な状態で樹木が生育できるようにしていきます。植物・昆虫標本についても適切な保存を継続します。					

事務事業名	文化財普及啓発事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	市史・文化財担当	樋田久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標		社会の健康・豊かな心を育むまち			
	個別目標		大和の文化を守り育てる			
	めざす成果		郷土の文化がしっかりと引き継がれている			
根拠法令	名 称	文化財保護法				
		社会教育法（博物館実習）				
当該事業の法令等による義務付けの有無		有				
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間	
					設定無し	

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
市民		28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）
	事業費	1,654	1,147	630
	人件費	4,379	4,350	4,350
目 的	総事業費	6,033	5,497	4,980
市民に身近な文化財を知ってもらうことで、郷土意識を高めます。	30年度事業費（予算額）財源内訳			
	国支出金			0
	県支出金			0
	市債			0
	その他			0
	一般財源			630
	合 計			630
	3. 活動内容			
	活動指標1	名称	文化財愛護講座参加者数	単位 人
		内容説明	参加申込みをし、当日参加した人数	
		指標値	28年度	29年度（当該年度）
			予 定	50
			実 績	68
講座の開催、案内板・標柱の適正管理、文化財防火デーの実施などによって、市民の文化財に対する知識や防火意識などを深めることができ、郷土愛が醸成されます。	活動指標2	名称	博物館実習修了者数	単位 人
		内容説明	所定の実習を修了した実習生数	
		指標値	28年度	29年度（当該年度）
			予 定	3
			実 績	4
	活動指標3	名称	文化財防火デーの消防訓練実施回数	単位
		内容説明	郷土民家園で実施する消防訓練の回数	
		指標値	28年度	29年度（当該年度）
			予 定	1
			実 績	1
文化財案内板の老朽化が進んでいるため、補修・建て替えなどが必要です。	活動指標4	名称		単位
		内容説明		
		指標値	28年度	29年度（当該年度）
			予 定	
			実 績	

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	I：現状のまま継続	28年度	I：現状のまま継続	29年度	I：現状のまま継続
	文化財愛護講座および消防訓練等を継続的に実施していくほか、文化財案内板等の修繕は経年劣化の著しいものから計画的に行います。文化財愛護講座や各種行事の開催案内などは、ホームページや広報やまなどの媒体を用いて、広く市民へ周知していきます。					

事務事業名	指定文化財保護支援事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	市史・文化財担当	樋田久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	社会の健康・豊かな心を育むまち		
	個別目標	大和の文化を守り育てる		
	めざす成果	郷土の文化がしっかりと引き継がれている		
根拠法令	名 称	文化財保護法		
当該事業の法令等による義務付けの有無		有		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
	昭和38年度			設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
指定文化財所有者		28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）
	事業費	290	290	290
	人件費	744	737	737
目 的	総事業費	1,034	1,027	1,027
市指定重要文化財の保護と保存管理体制の充実を図ります。	30年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
手段、手法【実施手法：直営】 管理者へ補助金を交付します。		県支出金		0
		市債		0
		その他		0
		一般財源		290
		合 計		290

3. 活動内容

活動指標1	名称	補助金交付件数			単位	件
	内容説明	市指定重要文化財の維持管理補助金交付件数				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	25	25	25	
		実 績	25	25	――	
活動指標2	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定				
		実 績			――	
活動指標3	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定				
		実 績			――	
活動指標4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定				
		実 績			――	

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	I：現状のまま継続	28年度	I：現状のまま継続	29年度	I：現状のまま継続
	引き続き指定文化財の管理に対する補助金を交付していきます。					

事務事業名	つる舞の里歴史資料館維持管理事務			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	市史・文化財担当	樋田久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	社会の健康・豊かな心を育むまち		
	個別目標	大和の文化を守り育てる		
	めざす成果	郷土の文化がしっかりと引き継がれている		
根拠法令	名 称	文化財保護法		
当該事業の法令等による義務付けの有無		有		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
	平成10年度			設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費			(単位：千円)
つる舞の里歴史資料館		28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）
	事業費	5,280	5,753	5,449
	人件費	4,262	4,376	4,376
目 的	総事業費	9,542	10,129	9,825
施設を適切に維持管理します。	30年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
		県支出金		0
		市債		0
		その他		0
		一般財源		5,449
		合 計		5,449
手段、手法【実施手法：直営】				
施設の日常的な維持・管理事務を行います。				

成 果（効果・予測） 市民が自由に入館し、展示物を観覧できる環境を維持します。	活動指標 1	名称	運営管理施設数		単位	件
		内容説明	維持管理施設の数			
		指標値	28年度		29年度（当該年度）	30年度
			予 定		1	1
			実 績		1	――
	活動指標 2	名称			単位	
		内容説明				
		指標値	28年度		29年度（当該年度）	30年度
			予 定			
			実 績			――
	活動指標 3	名称			単位	
		内容説明				
		指標値	28年度		29年度（当該年度）	30年度
			予 定			
			実 績			――
課 題 資料保存環境を維持するため、施設・設備の計画的な修繕が必要です。	活動指標 4	名称			単位	
		内容説明				
		指標値	28年度		29年度（当該年度）	30年度
			予 定			
			実 績			――

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	I：現状のまま継続	28年度	I：現状のまま継続	29年度	I：現状のまま継続
	施設の老朽化に伴い、修繕を始めとする必要な維持管理に努めるとともに、資料保存・資料見学・調査研究の機能を有する施設として、管理運営を進めていきます。					

事務事業名	有形文化財保護事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	市史・文化財担当	樋田久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	社会の健康・豊かな心を育むまち		
	個別目標	大和の文化を守り育てる		
	めざす成果	郷土の文化がしっかりと引き継がれている		
根拠法令	名 称	文化財保護法		
当該事業の法令等による義務付けの有無		有		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
				設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
市民		28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）
	事業費	454	458	467
	人件費	2,232	2,211	2,211
目 的	総事業費	2,686	2,669	2,678
有形文化財を適切に保存します。 手段、手法【実施手法：直営】 ・古文書、その外の歴史資料の情報を整理して、データベースを作製します。 ・調査記録は順に文化財調査報告書として刊行します。	30年度事業費（予算額）財源内訳			
	国支出金			0
	県支出金			0
	市債			0
	その他			0
	一般財源			467
	合 計			467

成 果（効果・予測） 資料調査によって、その価値を明らかにすることができ、活用や教育的利用がなされることとなります。	活動指標1	名称	歴史資料整理件数		単位	件
		内容説明	資料整理（目録化・点検・分類など）の件数			
		指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度
			予 定	1,000	1,000	1,000
			実 績	444	3,597	―――
	活動指標2	名称			単位	
		内容説明				
		指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度
			予 定			
			実 績			―――
課 題 有形文化財について順次調査を行い、記録保存するとともに、将来にわたり引き継いでいく必要があります。	活動指標3	名称			単位	
		内容説明				
		指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度
			予 定			
			実 績			―――
	活動指標4	名称			単位	
		内容説明				
		指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度
			予 定			
			実 績			―――

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	I：現状のまま継続	28年度	I：現状のまま継続	29年度	I：現状のまま継続
	古文書・工芸品・建造物等の有形文化財については、劣化、散逸の可能性があります。今後も継続して巡視、調査、記録しこれらの資料を市民共有の財産として将来へ継承していきます。					

事務事業名	無形文化財保護事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	市史・文化財担当	樋田久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標		社会の健康・豊かな心を育むまち			
	個別目標		大和の文化を守り育てる			
	めざす成果		郷土の文化がしっかりと引き継がれている			
根拠法令	名 称	文化財保護法				
当該事業の法令等による義務付けの有無		有				
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間	
					設定無し	

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
市民		28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）
	事業費	539	749	994
	人件費	1,934	1,916	1,916
目 的	総事業費	2,473	2,665	2,910
伝承者の高齢化などにより、失われつつある無形民俗文化財を調査し、映像で記録・保存し、市民が活用できるようにします。 手段、手法【実施手法：直営】 市内に残る無形民俗文化財を調査し、その様子をビデオ映像として収録し、映像記録として保存を図ります。また映像を作品として編集し、市民に公開できるようにします。	30年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
		県支出金		0
		市債		0
		その他		0
		一般財源		994
		合 計		994

活動指標1	名称	作品編集件数			単位	件
	内容説明	調査収録した無形民俗文化財映像を編集して作品を制作				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	1	0	1	
		実 績	1	0	――	
活動指標2	名称	収録調査済行事数			単位	件
	内容説明	撮影対象（行事）収録件数				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	1	1	1	
		実 績	1	1	――	
活動指標3	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定				
		実 績			――	
活動指標4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定				
		実 績			――	

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	I：現状のまま継続	28年度	I：現状のまま継続	29年度	I：現状のまま継続
	社会生活の変化のなかで失われつつある無形民俗文化財を今後も映像として収録し、保存していきます。また、蓄積した映像記録を有効に市民に提供できるような事業の一つとして、映像作品を作成し、無形民俗の後継者などへ貸し出し、活用していただきます。					

事務事業名	文化財保管施設維持管理事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	市史・文化財担当	樋田久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	社会の健康・豊かな心を育むまち		
	個別目標	大和の文化を守り育てる		
	めざす成果	郷土の文化がしっかりと引き継がれている		
根拠法令	名 称	文化財保護法		
当該事業の法令等による義務付けの有無		有		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
	昭和56年度			設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
文化財保管施設		28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）
	事業費	1,016	891	1,133
	人件費	670	663	663
目 的	総事業費	1,686	1,554	1,796
市が所有・管理する文化財を施設に収蔵し適切に保管します。また、資料整理の拠点として活用します。	30年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
手段、手法【実施手法：直営】 施設の維持管理を行います。		県支出金		0
		市債		0
		その他		0
		一般財源		1,133
		合 計		1,133
3. 活動内容				
活動指標1	名称	維持管理施設棟数		単位 件
	内容説明	維持管理施設棟数		
	指標値		28年度	29年度（当該年度）
		予 定	2	2
		実 績	2	――
活動指標2	名称			単位
	内容説明			
	指標値		28年度	29年度（当該年度）
		予 定		
		実 績		――
活動指標3	名称			単位
	内容説明			
	指標値		28年度	29年度（当該年度）
		予 定		
		実 績		――
活動指標4	名称			単位
	内容説明			
	指標値		28年度	29年度（当該年度）
		予 定		
		実 績		――
課 題				
経年劣化した施設・設備の計画的な修繕が必要です。				

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	28年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	29年度	Ⅱ：見直しのうえで継続
	劣化が著しい部分から必要な修繕をし、適切な維持管理をおこなっていきます。					

事務事業名	歴史資料提供・相談事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	市史・文化財担当	樋田久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間					
総合計画体系	基本目標		社会の健康・豊かな心を育むまち		
	個別目標		大和の文化を守り育てる		
	めざす成果		郷土の文化がしっかりと引き継がれている		
根拠法令	名 称	公文書館法(昭和63年6月1日施行)			
		公文書等の適切な管理、保存及び利用に関する懇談会報告書(平成16年6月)			
当該事業の法令等による義務付けの有無		有			
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間
					設定無し

2. 事務事業の概要								
対 象		総事業費 (単位：千円)						
市民、職員			28年度（決算額）		29年度（決算額）		30年度（予算額）	
		事業費	0		0		0	
		人件費	817		980		980	
目 的		総事業費	817		980		980	
地域の歴史・地誌・各種映像記録などについての照会・利用相談に対し回答します。		30年度事業費（予算額）財源内訳						
		国支出金		0				
		県支出金		0				
		市債		0				
		その他		0				
		一般財源		0				
		合 計		0				
3. 活動内容								
活動指標 1	名称	資料情報提供件数					単位	件
	内容説明	資料、地図、写真などの貸出および情報提供件数						
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度			
		予 定	50	50	50			
		実 績	59	26	－ － －			
活動指標 2	名称						単位	
	内容説明							
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度			
		予 定						
		実 績			－ － －			
活動指標 3	名称						単位	
	内容説明							
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度			
		予 定						
		実 績			－ － －			
活動指標 4	名称						単位	
	内容説明							
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度			
		予 定						
		実 績			－ － －			
課 題								
歴史資料に関する問い合わせに対し、迅速に対応することが求められます。								

4. 今後の方針等						
今後の方針等	27年度	I：現状のまま継続	28年度	I：現状のまま継続	29年度	I：現状のまま継続
	収集した歴史情報を必要に応じて提供できるよう整理します。また、問い合わせ内容と回答の情報を集約し、検索しやすくします。					

事務事業名	文化芸術振興基本計画進行管理事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	文化振興担当	樋田 久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	社会の健康・豊かな心を育むまち			
	個別目標	大和の文化を守り育てる			
	めざす成果	多様な文化や芸術を楽しむ人が増えている			
根拠法令	名 称	文化芸術基本法			
当該事業の法令等による義務付けの有無		一部有			
事務事業の期間	事業開始年度 平成23年度		事業終了（予定）年度		事業期間 設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
大和市文化芸術振興基本計画		28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）
	事業費	289	213	702
	人件費	1,860	2,948	5,158
目 的	総事業費	2,149	3,161	5,860
文化芸術振興のための施策を効果的に推進します。 手段、手法【実施手法：直営】 ・文化芸術振興基本計画の進行管理、改定に関する審議を行うため、文化芸術振興審議会を開催します。	30年度事業費（予算額）財源内訳			
	国支出金			0
	県支出金			0
	市債			0
	その他			0
	一般財源			702
	合 計			702

成 果（効果・予測） ・市民が文化芸術に親しむとともに、文化芸術を継承、創造、発信することができる環境を整備することができます。	活動指標1	名称	文化芸術振興審議会の開催回数		単位	回
		内容説明	文化芸術振興審議会の開催回数			
		指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度
			予 定	4	4	5
			実 績	4	3	――
	活動指標2	名称			単位	
		内容説明				
		指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度
			予 定			
			実 績			――
課 題 委員の構成については、本市の文化芸術を取り巻く環境を踏まえながら、議論の継続性ととともに意見の多様性にも考慮して、検討していく必要があります。	活動指標3	名称			単位	
		内容説明				
		指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度
			予 定			
			実 績			――
	活動指標4	名称			単位	
		内容説明				
		指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度
			予 定			
			実 績			――

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	I：現状のまま継続	28年度	I：現状のまま継続	29年度	I：現状のまま継続
	成果を示す指標等を用いて、計画の進捗状況を把握、点検し、文化芸術振興審議会をはじめ、市民や文化芸術団体等から意見を伺いながら、計画の改定作業を進めていきます。					

事務事業名	芸術文化ホール管理運営事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	文化振興課	文化振興担当	樋田 久美子

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標		社会の健康・豊かな心を育むまち			
	個別目標		大和の文化を守り育てる			
	めざす成果		多様な文化や芸術を楽しむ人が増えている			
根拠法令	名 称	文化芸術基本法				
		劇場・音楽堂の活性化に関する法律				
当該事業の法令等による義務付けの有無			一部有			
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間	
	平成27年度				設定無し	

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
やまと芸術文化ホール		28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）
	事業費	432,344	281,594	283,766
	人件費	2,976	1,474	1,474
目 的	総事業費	435,320	283,068	285,240
やまと芸術文化ホールの円滑な管理運営を行います。	30年度事業費（予算額）財源内訳			
	国支出金		0	
手段、手法【実施手法：直営・委託・指定管理】 ・指定管理者による管理運営を行います。	県支出金		0	
	市債		0	
	その他		0	
	一般財源		283,766	
	合 計		283,766	

3. 活動内容

活動指標1	名称	開館日数			単位	日
	内容説明	芸術文化ホールの開館日数				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	143	359	359	
		実 績	143	359	――	
活動指標2	名称	利用者数			単位	人
	内容説明	ホール、ギャラリー、マルチスペース利用者数				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	50,000	210,000	300,000	
		実 績	121,680	306,018	――	
活動指標3	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定				
		実 績			――	
活動指標4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定				
		実 績			――	

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	I：現状のまま継続	28年度	I：現状のまま継続	29年度	I：現状のまま継続
	今後も、指定管理者等と管理運営に関する課題について定期的に情報共有しながら、円滑かつ適切な管理運営の実現に努めていきます。					
	【「健康都市 やまと」まち・ひと・しごと創生総合戦略関連事業】					